

一般質問通告書

受領日時 令和4年5月30日 午前11時30分

6番 氏名 荒川 滋

質問項目	質問の要旨
1 平成23年11月1日施行の五城目産木材の利用促進に関する基本方針について	<p>(1) 五城目産木材の利用促進に関する基本方針が策定された経緯は。(主導の担当課も)</p> <p>(2) 10年経過し、公共建築物への導入実績は。</p> <p>(3) 現在進められている火葬場改修事業の内装において、地元産木材が活用されなかった理由は。 また、昨年3月定例会で地元産材と地元技術活用で県林業研究研修センターと連携すると言ったが叶わなかった。 業務内容を理解せずに答弁していたのか。</p> <p>(4) 令和3年5月の全員協議会で工事費の増加について、地場産木材使用も一因との説明があったが矛盾していないか。</p> <p>(5) 地元産木材の利活用が実現しなかった火葬場改修事業。 同基本方針に基づくPDCAサイクルでどう評価する。</p> <p>(6) 雇用先の減少が続く中、林業には大きな可能性がある。 民間が地元産木材使用の際の補助制度、間伐材や残材を使用した木質バイオマスエネルギーの有効活用、イメージ戦略など積極的な施策で林業の振興に結び付けることが求められるが、今後、五城目産木材利活用推進を図る意思は本当にあるのか。</p>
2 脱炭素社会実現に向けた取り組み	<p>(1) 政府が掲げる2050年の脱炭素社会実現に向け環境省は30年度までの脱炭素化を目指す先行地域の第一弾を発表し、県内では県・秋田市と大潟村が選出された。地域の実状や特性がよく捉えられた計画で脱炭素とまちおこしの相乗効果が期待できる。 当町は募集に応じたか。 また、環境省は25年度までに全国で100ヶ所に増やす考えで年内に第2弾を選定する。当町の対応は。</p> <p>(2) 新たな総合発展計画の基本目標1に掲げられるが、町では脱炭素をどう進めるか。 上記でも述べたが木質バイオマス活用も進めるべき。</p>
3 農家の所得向上に向けた取り組み	<p>(1) 農家の所得向上は、農業の持続と担い手確保のためにも欠かすことができない。農産物加工付加価値、6次産業化、ブランド化、経営の多角化、担い手の確保、基盤整備による規模拡大、組織化と法人化、ICT活用など早急に取り組むべき課題は多岐に渡るが、大前提は儲かる農業でなければいけないということである。 「儲かる農業」であるために町としてどう取り組むか。</p>

<p>4 川原町・新町地区 地盤沈下と馬場目川 の関係</p>	<p>(1) 馬場目川堤防からの土砂流出の可能性について、昨年県の関係者と町建設課で行った現地調査を経て本格的な調査が行われるということであったが、その後の状況は。 また、過去にも取り上げられているが、馬場目川土砂除去と雑木伐採について、県へのあらためての働きかけ強化を。</p> <p>(2) 川原町付近の地盤沈下は流雪溝への吸い込み土砂が馬場目川へ流出していることも一因の可能性はあるが町の見解は。</p> <p>(3) 川に堆積の土砂に散乱するゴミ問題に対する町の対応は。</p>
<p>5 朝市 500 年記念 マラソン大会</p>	<p>(1) 平成6年に始まり、県外からの参加者も多い朝市マラソン。ここ2年間はコロナの影響により中止を余儀なくされたが、今年の開催は。</p> <p>(2) これまで実行委員会の皆さんが中心となり開催されてきた。実施決定に関し町ではどう関わっているか。実行委員会の意見に任せているのか。</p> <p>(3) 地域にとって貴重な事業であり継続が望まれるが、今後に向けて町の方針は。</p>

(追加質問)

一般質問通告書

受領日時 令和4年6月6日 午後0時00分

6番 氏名 荒川 滋

質問項目	質問の要旨
6 行政報告について	<p>(1) 2月20日の通報を経て安全確保のために4月1日から通行止めとなっている。事業者は、多額の費用を要することが予想されるため再度現場確認をしてから判断したいとのことであったが、その後事情により現場確認を取りやめると連絡がきた。 再度の現場確認を取りやめるということをどうとらえるか。</p> <p>(2) 町は引き続き事業者と協議をしていくということだが、あくまでも先方の意向を待って従っていくのか。森山を大切な観光資源ととらえ、早期復旧に向けて町が着手することはできないか。</p>